

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 1 所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	笠間ファン倶楽部推進事業			評価区分	重要事務事業	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁		
				評価事業	総合計画実施計画	—	重点視点		市単独		
	総合計画	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕			新規・継続	継続			補助率	
	体系	小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します			開始年度	終了年度				
	施策	1 観光			事業期間	H16	単年度繰り返し	共催者・関係団体	笠間観光協会		
	小施策	1 多様な観光魅力の創出									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	農政課				
	一般	商工費	商工費	商工振興費	笠間ファン倶楽部推進事業	根拠法令					
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無			
						一部委託	—	—			

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
笠間ファンを増やすことにより交流人口の拡充を図り、産業振興や活性化を目的として事業化された。 取り組みとしては、平成16年12月に「笠間ファン倶楽部通信」が創刊し、笠間ファンの募集を開始し、現在までに約1,629名の会員が登録されている。 23年度から有料会員制度を導入し、笠間の粹ブランド商品を会員特典として送付するなど、会員との意思疎通を図った。さらに、発信力のある会員が多い東京地区に東京支部を発足させるなど組織強化をした。 その他、会員を対象に農業体験など笠間特有の体験事業を年数回実施している。	笠間ファン倶楽部通信発行 年4回(笠間観光協会) メルマガ送信 年11回 フェイスブックの開設 地元ファン倶楽部協力店事業実施 農業体験と笠間の自然を満喫する体験事業開催(豆腐作り、ホテル鑑賞、稲刈り、餅つき&しめ縄など) 首都圏居住者を対象に東京PRを実施(期間限定笠間レスト)	体験事業参加数 期間限定レストランの開設	報償費67,735円 旅費29,300円 需用費452,921円 役務費321,510円 委託費300,300円
	H25事業計画 笠間ファン倶楽部通信発行 年4回(笠間観光協会) メルマガ送信 年11回 フェイスブックによる情報提供 地元ファン倶楽部協力店事業実施 農業体験と笠間の自然を満喫する体験事業開催(4回実施予定) 首都圏居住者を対象に東京PRを実施(予定)	H26事業計画	H27事業計画

5 事務事業の目的と手段		単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	笠間ファン倶楽部会員	④対象指標
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	交流事業などを通じた会員の拡充及び交流によるもてなしの心の熟成と受け入れ体制の充実	⑤成果指標
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	年4回会員を対象にした体験事業の実施 笠間の食材(農産物)を活用した期間限定レストランの開設 有料会員制度の設立	⑥活動指標
			体験事業数 有料会員への情報提供数 期間限定レストラン入場者数

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円					480	500	600	700	750						
			一般財源	千円	1,013	1,578	691	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000							
	事業費計(ア)			千円	1,013	1,578	1,171	1,500	1,600	1,700	1,750	1,750							
人件費		職員割合	人 千円	0.50	3,750	0.50	3,750	0.50	3,750	0.50	3,750	0.50	3,750	0.50	3,750	0.50	3,750		
		時間外	千円		269	329													
		嘱託臨時	千円		1,500	1,650	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500								
		他課の協力分	千円		375	375	300	300	300	300									
		人件費計(イ)			千円	5,894	6,104	5,550	5,550	5,550	5,550	5,550							
トータルコスト(ア)+(イ)			千円	6,907	7,682	6,721	7,050	7,150	7,250	7,300									
		指標区分	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	体験事業数	回		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
	有料会員への情報提供数	回		10	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12			
	期間限定レストラン入場者数	人			411	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500			
対象指標	笠間ファン倶楽部会員	人		1,541	1,629	1,617	1,700	1,750	1,750	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,850			
成果指標	笠間ファン倶楽部会員数	人		1,541	1,629	1,617	1,700	1,750	1,750	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,850	1,850			
	観光客数	人		3,100,000	3,000,000	3,050,000	3,100,000	3,150,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,250,000	3,250,000			

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 発足当初と比較し、認知度も上昇し笠間に興味を持つ市外の笠間ファンが増加した。特にクラインガルテンなどの関連する方々が、会員事業や市のイベントなどにも多く参加することが多くなった。今年度から年会費を5,000円に一本化しより良いサービスの展開を図った。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある <p>①笠間市の知名度向上 ②交流人口の増加と定住化促進に結びつける事業として有効</p>
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある <p>③有料会員化により、各個店サービスなどあらゆる成果が期待出来る。 ④様々な分野での笠間土産開発など商品化やブランド化推進が期待出来る。</p>
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある <p>⑤企業者の協力による削減の可能性も考えられるが、事業が軌道に乗るまで様子を見る必要あり。 ⑥有料化2年目であり、今後の活動方針を明確にしなが、将来的には、観光協会などへの業務委託の検討が必要。</p>
一次評価結果	
必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
全体総括(振り返り、反省点) 笠間PRを行う会員の増加により、来訪者の増加や知名度向上につながる。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 有料化に伴い無料会員への対応が出来なくなったことから、新たな対応を検討する。	フォローアップ 前年度の課題や問題点 ③前年度の改革・改善案	その他 ⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる これまで蓄積してきた人脈やノウハウが無駄になってしまう。
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	④取組状況	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 笠間を応援する組織として、様々な団体等と連携する事により、一層の事業展開が必要。併せて、有料会員の増加や特典事業の見直しなどが必要。
	資源配分	拡 充	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 2 所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	笠間焼陶芸家支援事業			評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
				評価事業	重要事務事業	—	重点視点		国補助	
総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕			総合計画実施計画	○		補助率	笠間焼協同組合、県 窯業指導所	
	小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します			新規・継続	継続				
	施策	2 地場産業			開始年度	終了年度				
	小施策	1 経営の安定化推進			不明	継続	共催者・関係団体			
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	第四次伝統的工芸品産業産地振興計画			
	一般	商工費	商工費	商工振興費	地場産業支援事業(笠間焼)	根拠法令				
	一般	商工費	商工費	商工振興費	地場産業支援事業(笠間焼振興)(災害)	実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						一部委託	○	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
国の伝統的工芸品として指定を受けている笠間焼を活性化し、笠間への来訪者の増加などの要因により、地域経済効果を高める事を目的に、観光や農業などと連携を図った事業展開を行なう。	笠間焼協同組合と連携し、笠間の陶炎祭や市外でPR活動を実施。 震災により被害を受けた窯修復補助。 笠間焼第五次振興計画策定に向けた産地委員会の開催。	今後の笠間焼の方針検討協議数 窯修復数 笠間の陶炎祭集客数	報償費200,000円 旅費63,840円 需用費35,945円 役務費10,700円 負担金350,000円 協同組合補助金1,800,000円 復興支援補助金2,538,000円
H25事業計画		H26事業計画	
笠間焼協同組合と連携し、笠間の陶炎祭や市外でPR活動を実施。 笠間焼第五次振興計画に沿った事業展開。			

5 事務事業の目的と手段		単位			
目的	①対象(働きかける相手・もの)	笠間焼陶芸家、笠間焼販売店、飲食店、旅館、笠間焼協同組合	④対象指標	笠間焼協同組合員数 笠間焼販売店(内笠間焼協同組合員数)	人 人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	組合及び笠間焼陶芸家の経営安定させる	⑤成果指標	笠間の陶炎祭入込み数	人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	笠間の陶炎祭や市外でのPR事業 震災で影響を受けた笠間焼陶芸家への窯修繕への補助 国指定伝統的工芸品関連の団体と連携した事業を実施	⑥活動指標	窯修繕補助件数 PR事業数	件 回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移

事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円														
			県支出金	千円														
			地方債	千円														
			その他	千円														
			一般財源	千円	2,323	2,262	11,557	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	
事業費計(ア)		千円	2,323	2,262	11,557	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000			
人件費	人件費	職員割合	人 千円	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850	0.38 2,850			
		時間外	千円		177	250	250	300	300	300	300	300	300	300	300			
		嘱託臨時	千円															
		他課の協力分	千円															
		人件費計(イ)	千円	2,850	3,027	3,100	3,100	3,150	3,150	3,150	3,150	3,150	3,150	3,150	3,150			
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	5,173	5,289	14,657	14,100	14,150	14,150	14,150	14,150	14,150	14,150	14,150					
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	窯修繕補助件数	件		32	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	PR事業数	回		10	12	12	13	15	15	15	15	15	15	15				
対象指標	笠間焼協同組合員数	人		158	157	160	162	165	168	170								
	笠間焼販売店(内笠間焼協同組合員数)	人		26	26	26	26	27	28	29								
成果指標	笠間の陶炎祭入込み数	人		330,500	380,000	341,000	400,000	420,000	450,000	450,000								

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 笠間焼関連事業者は、震災以前から生活が困窮するほど売り上げの減少が続いていたが、今回の震災や風評被害などの影響で一層売り上げ減は継続している。市や国及び県においても、震災被害に対する補助や融資などの手当てを行っているが、業界全体がかなり厳しい状況である。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	地域資源である笠間焼を活用した「笠間市」PRや笠間焼の震災復興支援実施による経済活性化。
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	笠間焼のブランド化による「笠間市」の知名度向上や笠間焼を目的にした観光客増加が、期待出来る。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	状況により臨時雇用や業務委託による人件費削減の可能性を検討する。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間焼を活用した事業支援を行うことにより、笠間PRに大きな影響を与えられることが期待出来る。また、笠間焼を目的にした観光客への増加にも繋げていく。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 地場産業である笠間焼の支援を行う事により、地域経済活性化が期待出来る。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 稲田地区で採掘される稲田みかげ石は、建築資材として国会議事堂など主要施設で使用されているが、海外からの製品が安価に流通している為、輸入資材などにより稲田産のみかげ石はの産出量は激減している。今回の震災で、墓石の修繕などで経営状態は一息ついているが、1.2年後の経営状態はまた減少すると思われる。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	地場産業である稲田みかげ石支援による地域経済活性化
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	石材業全体の活性化、スラッジ処理支援による公害対策
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	他産地や他産業との連携により事業効果の向上
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	震災の影響による好況もあるが、基本的な構造の変化はないため、今後の支援は必要。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 住宅系メーカーとの事業展開による業務拡張
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 補助金を活用した稲田石PR

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 公共事業での活用や他産業との連携による事業展開を検討する
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 以前から課題となっていた飲食店での笠間焼の利用について、市内だけでなく近隣市町村への普及及び販路拡大を実施。国の緊急雇用制度を用い、雇用対策もかねた事業を実施した。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間焼のPR実施による笠間PRの向上
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	新たな商品開発(笠間火器)PRによる知名度アップ
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	既に雇用を条件にした事業であり、手法の検討は行う必要があるが、現時点では余地はない。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	国補助金活用による事業として、一層の笠間焼の販路拡大が必要
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 国の補助金の活用による事業として、今後も継続することが望ましい
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 新商品開発として、グラフィックデザイナーとのコラボレーションによるみかげ石を活用した作品制作を実施しているが、景気の問題や価格等の問題により、期待する以上の増とはなっていない。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	稲田みかげ石のPRにより、地場産業活性化による地域経済活性化に寄与
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	デザイナーとの連携による事業として、笠間PRの効果あり
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	国補助金の活用事業であり、委託事業でもある為、削減は困難
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	国補助金活用による事業として、稲田みかげ石の販路拡大が必要
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案          ④取組状況		⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる  ⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 国補助金の活用による事業として、今後も継続することが望ましい
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 経済状況悪化や震災の影響により、商売を止める商業者も多く空き店舗も増加している。しかし、観光地笠間のイメージアップと地域経済活性化に繋がる市街地活性化事業は非常に重要である。道路整備(まちづくり推進課)に併せ、個店の改修なども必要。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市街地内の商業活性化により、地域経済活性化が期待出来る
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	市街地内で実施される、活性化関連事業と連携する事により、成果向上が望まれる
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	市民や商店会などとの一層の連携が必要であるが、削減は困難
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	地域経済の核となる市街地を活性化することにより、市全体の活性化が期待出来る。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 内容の点検と評価を確認し、庁内や関連団体との連携を深め継続する
	資源配分	拡 充	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 7 所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	商工関連イベント補助	評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁
		評価事業	重要事務事業	—	重点視点		
総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕	総合計画実施計画	○		補助率	ふるさとまちづくりinかさま実行委員会 バザールdeいわま
	小政策	3 交通条件を生かした、豊かさを育む商工業を振興します	新規・継続	継続			
	施策	1 商業	開始年度	終了年度			
	小施策	3 他産業及び関連団体等との連携	不明	継続	共催者・関係団体		
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	
	一般	商工費	商工費	商工振興費	ふるさとまつり事業	根拠法令	
	一般	商工費	商工費	商工振興費	商工振興費標準的事業(商工G)	実施手法	補助金の有無
						すべて委託	負担金の有無

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
ふるさとまつり地域の産業振興とPRにより活性化を図ることや地域で活躍する市民団体のPRを目的にした事業として、商工会・農協・社会福祉協議会などの各種ボランティアの共催により、毎年秋の2日間にイベントを行う。 バザールdeいわま 岩間駅前の活性化を目的に駅前広場に出店者を募り、毎月第2日曜日にイベントを実施する。	ふるさとまつり実行委員会や幹事会へアドバイザーとしての出席と補助関連事務手続きを実施。また、開催日への人的支援を行う。 バザール開催日への人的支援及び月例会への出席と補助関連事務手続きを実施。  H25事業計画 ふるさとまつり実行委員会や幹事会へアドバイザーとしての出席と補助関連事務手続きを実施。また、開催日への人的支援を行う。 バザール開催日への人的支援及び月例会への出席と補助関連事務手続きを実施。	来場者数30,000人	バザール補助金400千円 ふるさと補助金8,730千円

目的	①対象(働きかける相手・もの)	商工業者、岩間地区駅前商業者、市民団体	④対象指標	イベント出店者数	単位	店
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	市民や観光客の市内商工業者の販売拡大	⑤成果指標	イベント参加者数		人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	「ふるさとまつりinかさま」や「バザールdeいわま」などのイベントを実施し、市内商工業者のPRに努めた。	⑥活動指標	実行委員会数		回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移

事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)			
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円														
			県支出金	千円														
			地方債	千円														
			その他	千円														
			一般財源	千円	8,900	9,230	9,130	9,030	8,930	8,830	8,730							
事業費計(ア)		千円	8,900	9,230	9,130	9,030	8,930	8,830	8,730									
人件費	人件費	職員割合	人 千円	0.16 1,200	0.16 1,200	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950	0.26 1,950				
		時間外	千円		177	180	180	180	180	180								
		嘱託臨時	千円															
		他課の協力分	千円															
		人件費計(イ)	千円	1,200	1,377	2,130	2,130	2,130	2,130	2,130								
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	10,100	10,607	11,260	11,160	11,060	10,960	10,860									
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	実行委員会数	回	17	17	17	17	17	17	17									
	対象指標	イベント出店者数	店	130	98	100	110	120	130	140								
成果指標	イベント参加者数	人	25,000	19,300	25,000	26,000	27,000	28,000	29,000									



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 H22年度より岩間商工祭をふるさとまつりと合同開催となり、会場も「緑の広場」になったことにより、市全体で取り組むイベントになった。  
 バザールについては、毎年補助金を100千円減額することで合意。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	岩間駅周辺の活性化事業として、市民が主体イベントを支援することは必要。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	イベント開催による活性化活動が、他地区にも拡充している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	既に補助金を毎年100千円ずつ減額しており、これ以上の削減余地はない
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市民主体となって取り組む事で、市街地の活性化事業として継続しており、今後の事業継続も必要。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 実行委員会主体の事業実施に変化をしているが、関連団体との調整を深める事により、今後、一層の発展が期待出来るため。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 B級グルメブームに乗って、全国各所で実施されているグルメイベントの元祖である「B1グランプリ」や市が主催となった「ご当地グルメサミット」の開催により、マスコミなどへの露出も多くなり、笠間をPRする良い材料となっている。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間をPRする手法として「笠間のいなり寿司」を活用するにあたり、いな吉会などと協働事業として実施することを検討する。
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある		
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	行政といな吉会の役割分担を明確にすることで、補助金で支出するなどにより人件費などの削減を検討する。
	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》		
一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		全体総括(振り返り、反省点)  笠間の食レベルアップや笠間をPRする事業としては、有効な施策である。今後も行政と関連団体と役割分担し、協働事業として事業を進めていく。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input checked="" type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 指摘のあった行政との役割分担を明確にし、関連団体や市民との連携により、事業としては拡充して進めること
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 三地区にあったたばこ小売組合をH22年度で解散し、H23年度より笠間地区たばこ販売協同組合へ補助への転換を図った。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	受動喫煙、未成年者喫煙防止、ポイ捨て防止などの環境整備改善活動を、関連団体と協議し見直しを図る
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	社会性のある事業として対象事業を検討し、市内でのたばこ販売増収によるたばこ税増収を図る
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	既に補助金を減額している。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	合併前からの補助対象団体であった三地区のたばこ小売組合を解散し、上部組織であるたばこ販売協同組合へ集約を図った。今後も販売組合の支援を実施し、たばこ税増収とたばこに関する環境整備を実施する。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

<p>①改革・改善案</p> <p>組合主体による新たな環境整備事業設立</p>	<p>フォローアップ 前年度の課題や問題点</p> <p>③前年度の改革・改善案</p>	<p>その他</p> <p>⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される  <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる</p> <p>活動がたばこ税の増収につながることを意識があり、市への貢献が大きいと考えている為、社会的貢献を前面に出した事業転換を図る。</p>
<p>②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法</p> <p>組合(事務局:商工会)との協議による新たな事業の検討</p>	<p>④取組状況</p>	<p>⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない  <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)</p> <p>名称 <input type="text"/></p> <p><input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる  <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している</p>

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 3地区解散により、販売組合に補助を一本化した事は評価できるが、たばこに対する市民の考え方を理解し、今後も社会的貢献のある事業として実施する。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 平成22年1月1日付けで3地区の商工会が合併したが、国や県での商工会全体の見直し作業により、組織や運営についての見直しが図られ、平成24年度より各事務所間で人事異動なども実施された。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	商工事業者に対する経営相談業務など、本来、行政が主体となって実施する業務について、商工会が窓口となっており、今後も専門的な業務を継続して実施する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	商工会の合併により、3地区合同事業として「商工感謝祭」「商品券発行」などを実施しており、それらの合併効果は見えるが、組織や事業見直しにより市民に対する効果の向上などを図っていく。
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	会員の意識向上や事務局体制の変革により、事業効果を向上させる。
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	三商工会の合併効果を向上させるため、事業手法や組織の見直しを図る必要がある。また、地域振興の観点も重要であり、会員の意識向上なども含めて産業界全体の活性化に向けた取り組みを実施していく。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 合併後の組織改革 会員及び事務局の意識改革
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 事務局内の組織改革 他の関連団体との連携事業

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している 農業や観光などとの事業連携

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 組織や事業手法の改革は必要であるが、中小企業者だけでなく市民からのニーズも高く、地域の活性化の中心的団体として、市民や他の団体などとの連携による事業を継続して実施していく。
	資源配分	拡 充	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 11

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	市金融制度事業				評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁		
					評価事業	重要事務事業	—	重点視点				
	総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕				総合計画実施計画	○		補助率		
		小政策	3 交通条件を生かした、豊かさを育む商工業を振興します				新規・継続	継続				
予算科目	施策	1 商業				事業期間	開始年度	終了年度	共催者・関係団体		商工会	
	小施策	4 経営の安定化				不明	継続					
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画						
	一般	商工費	商工費	商工振興費	中小企業金融支援事業	根拠法令						
	一般	商工費	商工費	商工振興費	中小企業金融支援事業(災害)	実施手法	補助金の有無	負担金の有無				
						一部委託	○	—				

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
市の金融制度である自治・振興金融制度を活用することにより、市内中小企業者の健全な企業活動を支援する。また、東日本大震災により被災を受けた中小企業者を対象に、既設の市金融制度を活用したものに保証料及び利子を全額補助する。	市金融制度に基づく事務 ・自治・振興金融保証料 ・利子補給 震災罹災者に対する支援 ・自治・振興金融保証料 ・利子補給	制度活用量数 利子補助1000件	委託料1,080千円 保証料補助金10,105千円 災害保証料補助金392千円 利子補助金8,924千円 災害利子補助金4095千円 預託金30,000千円 寄託金3,450千円
	H25事業計画 市金融制度に基づく事務 ・自治・振興金融保証料 ・利子補給 震災罹災者に対する支援 ・自治・振興金融保証料 ・利子補給	H26事業計画	H27事業計画

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	中小企業者	④対象指標	商工業者数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	制度活用による経営安定化	⑤成果指標	自治・振興金融利用者数 利子補給利用者数	人 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	市金融制度(自治・振興金融保証料及び利子の補助)の実施。 罹災した中小企業者支援として、震災復興自治・振興保証料及び利子の補助を実施	⑥活動指標	金融審査会数	回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移

事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)		
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円													
			県支出金	千円													
			地方債	千円													
			その他	千円													
			一般財源	千円	64,103	64,584	58,048	60,000	60,000	60,000	85,480						
事業費計(ア)		千円	64,103	64,584	58,048	60,000	60,000	60,000	85,480								
人件費	人件費	職員割合	人 千円	0.42 3,150	0.42 3,150	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900	0.52 3,900			
		時間外	千円		202	200	200										
		嘱託臨時	千円														
		他課の協力分	千円														
		人件費計(イ)	千円	3,150	3,352	4,100	4,100	3,900	3,900	3,900							
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	67,253	67,936	62,148	64,100	63,900	63,900	89,380								
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)		
活動指標	金融審査会数	回	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12				
対象指標	商工業者数	人	2,377	2,301	2,320	2,330	2,340	2,350	2,360								
成果指標	自治・振興金融利用者数	人	175	131	150	150	150	150	150								
	利子補給利用者数	人	686	562	600	620	630	640	650								

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 震災による補助制度(罹災者への利子・保証料補助)を確立し、3年を時限に(H25年度終了)実施。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か? また市民の意向や社会の要請から見て適切か?》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか? 実態(社会環境の変化)に合っているか?》	支援により、中小企業者の経営安定化が図れる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか? 工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか?》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか?》	市の金融施策として、中小企業支援として重要な施策である。また、震災罹災者の金融負担の軽減ともなっている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか? (業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	審査に関し、商工会が主体となって実施しており、国や県の金融制度とあわせた適切な指導業務により、市負担軽減が図れる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	中小企業に対する支援制度として有効な制度である。また、震災罹災者に対する制度として今後も継続すべき事業である。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

フォローアップ 前年度の課題や問題点

その他

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

③前年度の改革・改善案
④取組状況

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 中小企業の経営安定化に必須な事業であり、今後も事業継続が必要。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 経済状況や雇用状況の悪化に対する支援策として、雇用に関する補助を実施。(国ハローワーク)などと連携した事業として、中小企業の経営安定化にもつながった。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	未就職者などの資格取得支援により、正規雇用者の増加が図れる。
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	事業効果を向上させるため、広報の充実を図った結果、昨年度の実績を上回った。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	PRの充実をはかり、活用の向上を図る。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	離職者や学生などへの資格取得による能力向上が図られ、雇用促進が図られる事業であり、今後も継続した事業を実施する。 また、雇用安定にも重要な事業である。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 雇用促進を図るための事業として、有効な事業であり、今後も継続していく必要がある。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 経営状況の低迷などにより、企業の受入は厳しい。しかし、高校や大学などのニーズは高く、拡充し継続する必要あり。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	若年者の就職支援策として、学校や地域企業等との連携による事業として必要。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	震災の影響に関わらず、前年以上の実績があった。また、中小企業者の社会貢献事業としても有効。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	中小企業者の協力が必須な事業であるが、学校や企業との協力による効果向上を図る。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	雇用創出研究会の協力により、事業の効果は向上したが、研究会は今年度をもって解散のため同様の効果が図れる様な事業展開を検討する。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 学生の雇用拡充や市内企業の活性化を図るため、重要な事業であり、今後も継続した事業として取り組む。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
産業関連の事務委任として、H24年度についても2事業が委任される。今後も委任の検討をする事務があり、組織体制を含めた環境作りが必要。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある
一次評価結果	
全体総括(振り返り、反省点)	
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある

【ACTION】事務事業の改革・改善

フォローアップ 前年度の課題や問題点

その他

<p>①改革・改善案</p>          <p>②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法</p>          	<p>③前年度の改革・改善案</p>          <p>④取組状況</p>          	<p>⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策</p> <input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
		<p>⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)</p> <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性		評価理由
	資源配分		





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
 笠間市の中核施設として情報を発信し、地場産業と観光の振興を目指してきたが、年間を通した来場者数は北関東自動車道路が全線開通した効果はあるものの、東日本大震災の被害の大きさと、原子力発電所事故の風評被害の収束など計り知れない大きな課題が残されており、その影響も非常に大きなものと予想される。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間の観光情報発信機能を整備した施設であるため管理することは適切である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》		
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	指定管理料として植栽管理及び施設等の修繕料の事業費であるため削減の余地はない。
	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》		
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)	
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間市の中核施設として地場産業の振興と情報発信の強化	
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案          ④取組状況	⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間市の地場産業の振興、参加体験型施設、観光情報発信機能として整備された施設である。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市民や観光客の健康増進のためには必要である。
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	市民や観光客の健康志向の向上には有効である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	みかげ石などの地場産材を活用した整備を計画しているため削減の余地がない。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	佐白山周辺を整備することにより、山麓公園や稲荷神社などを含めた回遊性と滞留時間の延長を期待できる。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 19

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	愛宕山周辺整備事業			評価区分	事務事業性質	維持管理事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
				評価事業	重要事務事業	—	重点視点			
総合計画体系	政策	4 自然と共生した安全でやさしさのあるまちづくり〔生活環境〕			総合計画実施計画	○		補助率	(社)笠間観光協会	
	小政策	1 だれにもやさしく、潤いのある生活環境を整えます			新規・継続	継続				
	施策	2 公園・緑地			開始年度	終了年度				
	小施策	1 自然公園の保全・活用			H3	単年度繰返し	共催者・関係団体			
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画			
	一般	商工費	観光費	観光施設費	愛宕山管理事業 (スカイロッジ管理含む)	根拠法令				
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						一部委託	—	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
地域との連携を深めた「通年型観光拠点施設」として、指定管理者制度を活用し稼働率の向上を図る。	・指定管理の年度協定書の締結	・スカイロッジ宿泊者数 10,000人	需用費 50千円 委託料 10,655千円 賃借料 2,841千円 工事請負費 1,862千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	市民、観光客	④対象指標	宿泊者数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	利用者の利便性を高め、稼働率の向上を図るとともに、愛宕山周辺地域全体の魅力を向上させ集客を図る。	⑤成果指標	宿泊額 稼働率(宿泊人数) 稼働率(宿泊棟数)	円 % %
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	スカイロッジ施設整備の実施。 スカイロッジ・フォレストハウス・野外ステージ等、愛宕山周辺を一体的に管理できるように指定管理者制度を導入。	⑥活動指標	指定管理料 施設整備 営業日	円 件 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																		
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)		
投入コスト (インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	3,255													
		県支出金	千円															
		地方債	千円															
		その他	千円	88	90													
		一般財源	千円	11,178	14,018	15,408	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	
	事業費計(ア)	千円	14,521	14,108	15,408	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	14,032	
人件費	職員割合	人 千円	0.43	3,225	0.29	2,175	0.35	2,625	0.35	2,625	0.35	2,625	0.35	2,625	0.35	2,625	0.35	2,625
	時間外	千円	55															
	嘱託臨時	千円																
	他課の協力分	千円																
	人件費計(イ)	千円	3,280	2,175	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	17,801	16,283	18,033	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	16,657	
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	指定管理料	円	0	0	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,900,000	9,500,000			
	施設整備	件	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				
	営業日	日	366	365	365	365	366	365	365	366	365	365	365	365				
対象指標	宿泊者数	人	7,307	7,751	10,000	10,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	12,000					
成果指標	宿泊額	円	28,355,590	27,638,920	30,070,000	30,700,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000	33,000,000	36,000,000						
	稼働率(宿泊人数)	%	31	33	43	43	53	53	53	53	53	60						
	稼働率(宿泊棟数)	%	38	35	45	45	55	55	55	55	55	62						



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

東日本大震災の影響で23年度は宿泊者が減少したが、リピーターなどにより回復しつつある。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	スカイロッジを拠点に愛宕山周辺一体を管理するためには必要である。
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性評価	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	宿泊促進のための宿泊プランなどを企画する必要がある。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	
効率性評価	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	指定管理者制度の導入により効率性を図っている。
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
一次評価結果	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	全体総括(振り返り、反省点)
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	スカイロッジを拠点に愛宕山周辺一体を管理するためには、指定管理者制度の導入は適切であった。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
スカイロッジの稼働率アップに向けた企画事業の実施。
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 スカイロッジの稼働率アップに向けた企画事業を行っているが、更なる誘客に向けたプラン作りが必要である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 20

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	北山公園管理事業			評価区分	事務事業性質	維持管理事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
				評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
総合計画体系	政策	4 自然と共生した安全でやさしさのあるまちづくり〔生活環境〕			総合計画実施計画	—		補助率	笠間市造園建設業協同組合	
	小政策	1 だれにもやさしく、潤いのある生活環境を整えます			新規・継続	継続				
	施策	2 公園・緑地			事業期間	開始年度	終了年度			
	小施策	1 自然公園の保全・活用			S53	単年度繰返し	共催者・関係団体			
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画			
	一般	商工費	観光費	観光施設費	北山公園管理事務	根拠法令				
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
						一部委託	—	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】		2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】		3 【年度目標】		4 【事業費の内容(決算額)】	
市民や観光客が北山公園の自然環境に親しみながら、観光レクリエーション及びスポーツ活動、健康増進に活用できるように園内の維持管理を行う。		<ul style="list-style-type: none"> <li>北山公園管理業務委託(指定管理)</li> <li>園内修繕</li> <li>土地賃借料</li> </ul>		入園者数 210,000人		需用費 450千円 委託料 16,398千円 賃借料 1,002千円 原材料費 100千円	
		H25事業計画		H26事業計画		H27事業計画	
		同上		同上		同上	

5 事務事業の目的と手段				単位		
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	市民、観光客		④ 対象指標	市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	市民や観光客が北山公園の自然環境に親しみながら、観光レクリエーション及びスポーツ活動、健康増進に活用できるように園内の維持管理を行う。		⑤ 成果指標	入園者数	人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	園内施設の修繕の実施。 指定管理者制度を導入し水性植物園等の管理の実施。		⑥ 活動指標	指定管理料 管理面積	円 m <sup>2</sup>

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移

事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)	
投入コスト(インプット)	事業費	国庫支出金	千円													
		県支出金	千円													
		地方債	千円													
		その他	千円													
	一般財源	千円	18,571	17,086	17,950	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	
	事業費計(ア)	千円	18,571	17,086	17,950	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	17,433	
人件費	人件費	職員割合	人 千円	0.35 2,625	0.08 600	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	0.12 900	
		時間外	千円	53												
		嘱託臨時	千円													
		他課の協力分	千円													
		人件費計(イ)	千円	2,678	600	900	900	900	900	900	900	900	900	900		
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円	21,249	17,686	18,850	18,333	18,333	18,333	18,333	18,333	18,333	18,333	18,333			
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)	
活動指標	指定管理料	円	15,600,000		15,000,000		15,000,000		15,000,000		15,000,000		15,000,000		15,000,000	
	管理面積	m <sup>2</sup>	86,980		86,980		86,980		86,980		86,980		86,980		86,980	
対象指標	市民数	人	79,409		78,862		78,279		79,000		79,000		79,000		79,000	
	入園者数	人	200,683		162,691		210,000		210,000		210,000		210,000		210,000	

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市民の観光レクリエーション及びスポーツ活動、健康維持増進に活用し、また維持管理することは適切である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	現在の施設では、指定管理者の専門的技術による管理が有効であり、入園者の増加の向上の余地はない。
効率的性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	指定管理者制度の導入により効率性を図っている。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		全体総括(振り返り、反省点)  指定管理者が造園の専門業者であるため、管理が適切に行われた。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案          ④取組状況	⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 指定管理者の専門的技術により公園内の管理が良くなった。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
車椅子やベビーカー利用者が散策できるよう整備の要望がある。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	市民や観光客が自然環境に親しみながら、安全に散策するためには必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	健康増進に活用するためには、安全かつ快適に利用することは有効である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	仕様や工法を見直し、事業費を削減する。
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	新池周辺整備だけでなく、今後道路整備の計画によっては、バーベキュー場やキャンプ場等の再整備が必要になってくる。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 散策路や護岸の工法の見直しを行うことにより、事業費を削減する。
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 整備工事発注前に工法を精査する。

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 新池周辺を整備することにより、管理の利便性や利用者の増加が図れる。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間市の春のイベント代表する「つつじまつり」を開催するためには必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	年々樹木が成長しているため、年間を通して専門業者に業務委託することは有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	年間を通しての業務委託のため効率的である。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  年間を通しての造園業の専門家に業務委託していても、天候などに左右され、ここ数年開花が遅れている状況である。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間の春を代表するイベントを開催するためには、年間を通して専門業者に維持管理の業務を委託する必要がある。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	観光施設を管理することにより、訪問者が快適に利用できるようにするためには必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	観光施設を管理し、快適に利用できるようにすることにより、リピーターの増加には有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	草刈や清掃業務委託などは、高齢者雇用の促進によりシルバー人材センターを活用している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  常時、観光施設を管理しているが、突発的な修繕などの対応が必要になる。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 観光施設を常時管理するためには、現行どおり継続し、現状維持が必要である。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 24

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	菊栽培所管理事業		評価区分	事務事業性質	維持管理事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
			評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
	総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕	総合計画実施計画	—				
		小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します	新規・継続	継続				
施策	1 観光	3 観光振興と交流の担い手づくり	事業期間	開始年度	終了年度				
小施策	1 観光		不明	単年度繰返し	共催者・関係団体				
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画		
	一般	商工費	観光費	観光施設費	菊栽培所管理事業	根拠法令			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						直営	—	—	

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
菊まつりに展示する各種の菊を計画的に栽培する。 菊栽培技術の広がりを図るために、市民の希望者を募り菊栽培講習会を定期的に行い、市民菊花展に参加してもらう。	菊栽培所管理業務 ・賃金の支払い ・市民菊花展及び講習会の開催 ・栽培所管理運営に係る事務処理 ・作業員の業務委託依頼	栽培鉢数 2,000鉢	共済費 640千円 賃金 4,516千円 需用費 1,304千円 役務費 31千円 委託料 2,999千円 原材料費 131千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段			単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民、観光客	④対象指標 市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	菊まつりに展示する各種の菊を毎年計画的に栽培することにより、菊まつりの来訪者の増加を図る。菊栽培技術を市民の菊愛好家に広げ、市民菊花展参加者の増加を図る。	⑤成果指標 菊まつり入込客数 市民菊花展参加者数	人 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	菊まつりに展示する各種の菊を計画的に栽培した。菊栽培技術の広がりを図るために、市民の希望者を募り菊栽培講習会を定期的に行い、市民菊花展に参加してもらった。	⑥活動指標 菊栽培数 菊栽培講習会	鉢 回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																			
		事業費	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	26年度(計画)	27年度(計画)	28年度(計画)									
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円															
			県支出金	千円															
			地方債	千円															
			その他	千円															
			一般財源	千円	3,961	4,010	9,621	9,685	9,685	9,685	9,685	9,685							
		事業費計(ア)	千円	3,961	4,010	9,621	9,685	9,685	9,685	9,685	9,685								
人件費		職員割合	人 千円	2.11 15,825	1.05 7,875	0.10 750	0.10 750	0.10 750	0.10 750	0.10 750	0.10 750								
		時間外	千円																
		嘱託臨時	千円	2,789	3,784	5,217	5,217	5,217	5,217	5,217	5,217								
		他課の協力分	千円																
	人件費計(イ)	千円	18,614	11,659	5,967	5,967	5,967	5,967	5,967	5,967									
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円	22,575	15,669	15,588	15,652	15,652	15,652	15,652	15,652									
		指標区分	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(目標)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)									
活動指標	菊栽培数	鉢		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000									
	菊栽培講習会	回		3	2	3	3	3	3	3									
対象指標	市民数	人		79,409	78,862	78,279	79,000	79,000	79,000	79,000									
成果指標	菊まつり入込客数	人		775,000	770,000	793,000	800,000	800,000	800,000	800,000									
	市民菊花展参加者数	人		21	21	21	25	25	25	25									



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	空間の菊まつりにおいて、市内を装飾する菊花の提供のためには必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	毎年、菊まつりに菊花を提供するためには、菊栽培所を市直営で運営することは有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	菊栽培技術のある方をシルバー人材センターから業務委託により、派遣されているため効率的である。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  菊栽培技術を有する方が高齢化になってきているが、シルバー人材センターに経験者を業務委託し、臨時職員についても菊栽培の知識と経験をだんだんに習得している。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案          ④取組状況	⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 菊まつりにおいて、市内の菊装飾には欠かせない菊花を栽培することは、菊栽培に関する知識や経験が必要になるため、現行どおり継続していく必要がある。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市民や観光客のために市営駐車場を整備することは必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	イベント開催時に無料で快適に利用してもらうことは、リピーターの利用に有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	年末年始の駐車料金徴収や草刈業務委託など、高齢者雇用促進によりシルバー人材センターに業務を委託し、経費の削減など効率化を図っている。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  利用者が快適に利用できるようにするためには、突発的な修繕に対応する必要がある。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市営による駐車場の維持管理は、現行どおり継続し、現状を維持していく必要がある。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 26

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	観光協会の強化促進事業			評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
				評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
	総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕			総合計画実施計画	○	補助率		
		小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します			新規・継続	継続			
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画			
	一般	商工費	観光費	観光総務費	観光協会の強化促進事業	根拠法令	笠間市観光協会補助金交付要綱			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無		
							○	—		

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
観光事業の振興と健全な発展を図り、笠間市に観光客を誘致し地域経済の発展に資するため、観光協会の育成強化を推進する。	補助金の支出(年2回) 旅行商品の造成・企画の連携 観光協会との連絡調整・経営基盤強化への助言 各種イベントの連携	協会員数 420人	補助金 24,250千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	協会会員、市民、観光客	④対象指標	市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	通年滞在型観光の展開により、観光客の増加を図る。財政力強化のため、会員数の増加を図る。	⑤成果指標	事業収益 協会員数	円 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	観光協会の財政の健全化を図るため、補助金交付要綱を制定。 通年滞在型観光地を目指すため、観光協会の旅行業の支援を実施。	⑥活動指標	人件費補助	円
				事業費補助	円

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移

事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)	
投入コスト (インプット)	事業費	国庫支出金	千円													
		県支出金	千円													
		地方債	千円													
		その他	千円													
	一般財源	千円	25,000	24,250	24,250	27,270	27,270	27,270	24,250							
事業費計(ア)		千円	25,000	24,250	24,250	27,270	27,270	27,270	24,250							
人件費	職員割合	人 千円	0.79	5,925	0.82	6,150	0.60	4,500	0.60	4,500	0.60	4,500	0.60	4,500	0.60	4,500
	時間外	千円	58													
	嘱託臨時	千円														
	他課の協力分	千円														
	人件費計(イ)	千円	5,983	6,150	4,500	4,500	4,500	4,500								
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	30,983	30,400	28,750	31,770	31,770	31,770	28,750							
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)	
活動指標	人件費補助	円	18,446,000	17,840,000	21,940,000	21,940,000	21,940,000	21,940,000	17,840,000							
	事業費補助	円	6,554,000	6,410,000	5,330,000	5,330,000	5,330,000	5,330,000	6,410,000							
対象指標	市民数	人	79,409	78,862	78,279	79,000	79,000	79,000	79,000							
成果指標	事業収益	円	1,495,433	1,600,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000							
	協会員数	人	423	410	399	410	415	415	420							

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
東日本大震災や原子力発電所事故の風評被害などがあるため、より一層の観光PRが必要になる。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	観光協会の収益事業による財政基盤が強化されるまでは必要である。
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	観光協会の旅行事業である「笠間発見ツアーズ」による成果の向上が期待できる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	観光協会会員や収益事業の収益増加により削減の余地はある。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間市の観光事業の振興のため、観光協会の財政基盤の強化が課題である。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 収益事業の収益増加のための企画や営業活動の強化
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 協会員増加のための勧誘 収益事業の営業活動強化のための人員増

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案 緊急雇用事業による「着地型ビジネスモデル事業」の継続委託(H21～H23)
④取組状況 着地型ビジネスモデル事業を活用した営業活動

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 財政基盤の弱体による運営の低下
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 観光協会の財政の健全化を図り、収益事業強化による通年型観光の展開により、観光客の増加を図る必要があるため、現段階では現行どおり継続し、現状維持が望ましい。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
一次評価結果	
全体総括(振り返り、反省点)	
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある

【ACTION】事務事業の改革・改善

フォローアップ 前年度の課題や問題点

その他

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

③前年度の改革・改善案
④取組状況

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される
<input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない
<input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる
<input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性		評価理由
	資源配分		



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	観光キャンペーンやイベントなどでは観光大使の存在が必要である。
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性評価	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	笠間市の知名度向上には有効である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	事業費については、賃金や消耗品などの活動経費であるため削減の余地がない。
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	観光キャンペーンなどで観光大使がPRすることにより、笠間の知名度向上が図れた。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間をアピールする上では有効であるため、現行どおり継続する必要がある。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	テレビ・映画・CM等で笠間市を広く紹介することは必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果はあるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	映画など長期の撮影があった場合は、撮影隊の食事など市内の経済効果が期待できる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	ホームページでの紹介や茨城県フィルムコミッション推進室との連携により経費的には効率的である。また、エキストラの登録制などで市民の協力を得ている。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  都内の撮影隊が主であり、都内からの近いこともあり日帰りが多いが、宿泊を伴う撮影があれば市内の経済効果に期待が出来る。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案          ④取組状況	⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 ロケ地として笠間市を取り上げてもらうことは、笠間市の知名度向上になり、また市内業者の活性化にも繋がるため、現行どおり継続する必要がある。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

行政評価外部評価委員会での外部評価結果:民間に移管

方向性

- 一般的なPR事業は、観光協会で扱うものとし、関係者と観光協会に移管に向けた協議を進めるべきである。
- 市は、観光政策の中で必要な、調査、研究、企画、施設整備など基盤的な事業に力点を置くべきである。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か?また市民の意向や社会の要請から見て適切か?》	空間の観光をPRするための有効な手段として、旅行会社・新聞社・放送局等の訪問は必要である。
	②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか?実態(社会環境の変化)に合っているか?》	
有効性評価	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか?工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか?》	訪問先の広告やテレビなどの出演により、空間のPRが出来ることは有効である。
	④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか?》	
効率性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》	外部評価の結果、観光協会などに観光キャンペーンを民間に移管することにより、人件費の削減が図れる。
	⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか?(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	春・秋のイベント開催前に県関係、新聞社、放送局を訪問したり、旅行会社へのセールスなど空間の観光をPRするための手段としては有効であるが、外部評価の結果を受け止め民間に移管の方向で検討する必要がある。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 一般的な観光PRの民間への移管
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 関係機関との移管に向けた協議

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	改善し, 継続	評価理由 行政評価外部評価結果での方向性のとおり, 一般的なPR事業は、観光協会で扱うものとし、関係者と観光協会の移管に向けた協議を進める必要がある。市と観光協会の役割分担を明確にする必要がある。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 31

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	観光周遊バス運行協議会事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
			評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕		総合計画実施計画	○		補助率	笠間市内観光周遊バス運行協議会	
	小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します		新規・継続	継続				
	施策	1 観光		開始年度	終了年度				
	小施策	4 おもてなしの心の醸成と充実		H13	単年度繰返し	共催者・関係団体			
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画		
	一般	商工費	観光費	観光総務費	観光総務標準的事業	根拠法令			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						すべて委託	—	○	

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
観光客の周遊観光の促進のために平成13年に無料で開始され、平成20年に新型バスが導入されたのを機に有料化で運行されている。平成21年10月から一日乗車券の扱いが開始された。 ・1回乗車につき 100円 ・1日フリー乗車券 200円 笠間市内観光周遊バス運行協議会構成団体 ・笠間市 ・日動美術館 ・笠間稲荷神社 ・茨城県陶芸美術館 ・笠間工芸の丘 ・笠間観光協会	・笠間市内観光周遊バス運行協議会への出席 ・負担金の支出	利用者数 24,000人	負担金 2,400千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民、観光客	④対象指標	市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか、どうい状態にしたいのか)	協議会加盟団体と連携し、周遊観光の促進を図る。	⑤成果指標	利用者数 観光客動態調査による利用率	人 %
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	観光客の周遊観光促進のために、協議会を定期的実施。	⑥活動指標	運行会議数	回
				運行日	日
				運行数	便

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移														
		事業費	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	26年度(計画)	27年度(計画)	28年度(計画)				
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円										
			県支出金	千円										
			地方債	千円										
			その他	千円										
			一般財源	千円	2,460	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	
	事業費計(ア)	千円	2,460	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400	2,400			
人件費		職員割合	人 千円	0.02 150	0.03 225	0.03 225	0.03 225	0.03 225	0.03 225	0.03 225	0.03 225			
		時間外	千円											
		嘱託臨時	千円											
		他課の協力分	千円											
		人件費計(イ)	千円	150	225	225	225	225	225	225	225			
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	2,610	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625	2,625				
		指標区分	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(目標)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)				
活動指標	運行会議数	回	3	3	3	3	3	3	3	3				
	運行日	日	317	318	317	317	318	316	316	316				
	運行数	便	8	8	8	8	8	8	8	8				
対象指標	市民数	人	79,409	78,862	78,276	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000				
成果指標	利用者数	人	23,220	20,443	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000				
	観光客動態調査による利用率	%	16	37	45	45	45	50	50	50				

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	電車や自家用車以外で笠間を訪れる観光客にとっては必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	観光客ばかりでなく、市民の方も利用できるのが有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	構成団体により、3年に1度負担金の見直しや委託業者の選定を実施している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  公共交通を利用する観光客ばかりでなく、交通弱者の市民の方などに利用を考慮して、平成21年度から一日フリー乗車券の販売を開始し、利用者の増加を図っている。通常、月曜日が運休日であるが、春・秋のイベント時には運行し、観光客の利便性を図っている。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 観光客動態調査の利用率からも、鉄道・定期バスを利用して本市を訪れる方のために現行どおり継続する必要がある。
	資源配分	現状維持	



実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 32

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	観光案内所運営委託事業				評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
					評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
総合計画体系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕				新規・継続	継続		補助率	(社)笠間観光協会	
	小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します				開始年度	終了年度				
	施策	1 観光				不明	単年度繰返し	共催者・関係団体			
	小施策	4 おもてなしの心の醸成と充実									
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画				
	一般	商工費	観光費	観光総務費	観光総務標準の事業	根拠法令					
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無			
						すべて委託	—	—			

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
JR笠間駅前に観光案内所を設置し、観光客の利用向上を図るために観光案内・刊行パンフレット配布・周辺の清掃等を行う。観光協会に運営を委託する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務委託の締結</li> <li>委託料の支出(毎月)</li> </ul>	利用者数(電話・窓口) 25,500人	委託料 2,835千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段				単位	
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民、観光客	④対象指標	市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	JR笠間駅前に観光案内所を設置し、観光客の利用向上を図る。	⑤成果指標	利用者数 外国人利用者数	人 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	観光客の利用向上を図るため、観光協会に運営を委託。	⑥活動指標	委託料 運営日数	円 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																
		事業費	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(計画)	26年度(計画)	27年度(計画)	28年度(計画)						
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円												
			県支出金	千円												
			地方債	千円												
			その他	千円												
			一般財源	千円	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	
	事業費計(ア)	千円	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835	2,835			
人件費		職員割合	人 千円	0.02	150	0.02	150	0.02	150	0.02	150	0.02	150	0.02	150	
		時間外	千円													
		嘱託臨時	千円													
		他課の協力分	千円													
		人件費計(イ)	千円	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150			
		トータルコスト(ア)+(イ)	千円	2,985	2,985	2,985	2,985	2,985	2,985	2,985	2,985	2,985				
		指標区分	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(目標)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)						
活動指標	委託料	円	2,835,000	2,835,000	2,835,000	2,835,000	2,835,000	2,835,000	2,835,000	2,835,000						
	運営日数	日	362	363	362	362	362	362	363	362						
対象指標	市民数	人	79,409	78,862	78,279	79,000	79,000	79,000	79,000	79,000						
成果指標	利用者数	人	24,131	25,154	24,195	25,500	25,500	25,500	25,500	25,500						
	外国人利用者数	人	71	26	50	50	50	50	50	50						

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間駅は鉄道での玄関口であるため、観光案内所を設置することは必要である。
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》		
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	鉄道を利用する観光客には駅前という立地条件のため、有効である。
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》		
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	人件費分の業務委託のため、削減の余地がない。
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》		
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)	
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	本市を訪れる観光客は殆どが自家用車であるが、鉄道を利用して訪れる観光客のために、観光地笠間としての親切な対応が必要である。	
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 イベント時だけでなく、通年型観光地を目指すためにも観光案内所の役割は重要なため、現行どおり継続していく必要がある。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 33

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	笠間・吾国・愛宕県立自然公園協議会事業		評価区分	事務事業性質	維持管理事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
			評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
総合計画体系	政策	4 自然と共生した安全でやさしさのあるまちづくり〔生活環境〕		総合計画実施計画	○		補助率		
	小政策	1 だれにもやさしく、潤いのある生活環境を整えます		新規・継続	継続				
	施策	2 公園・緑地		事業期間	開始年度	終了年度			
	小施策	1 自然公園の保全・活用		不明	単年度繰返し	共催者・関係団体		笠間・吾国愛宕県立自然公園協議会	
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画		
	一般	商工費	観光費	観光総務費	観光総務費標準的事業	根拠法令			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						すべて委託	—	○	

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
笠間市・石岡市・桜川市で協議会を構成し、県立自然公園の施設の修繕、ハイキングコース周知のためハイキング大会の開催等により、普及促進を図る。	・笠間・吾国愛宕県立自然公園協議会への出席 ・負担金の支出 ・笠間市が協議会の事務局	ハイキング参加者 200人	負担金 557千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段			単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	市民、ハイキング参加者、団体関係者	④ 対象指標 市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	笠間・吾国愛宕県立自然公園地域の保護管理及び観光事業の振興と健全な発展を図る。	⑤ 成果指標 ハイキング参加数 ハイキングコース利用者(概算)	人 人
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	協議会で笠間・吾国愛宕県立自然公園内の施設の修繕及びハイキング大会の実施。	⑥ 活動指標 会議数	回

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移

事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)	
投入コスト(インプット)	事業費	国庫支出金	千円													
		県支出金	千円													
		地方債	千円													
		その他	千円													
	一般財源	千円	557	557	557	357	357	357	357							
	事業費計(ア)	千円	557	557	557	357	357	357								
人件費	職員割合	人 千円	0.07 525	0.04 300	0.13 975	0.13 975	0.04 300	0.04 300	0.04 300							
	時間外	千円														
	嘱託臨時	千円														
	他課の協力分	千円														
	人件費計(イ)	千円	525	300	975	975	300	300								
	トータルコスト(ア)+(イ)	千円	1,082	857	1,532	1,332	657	657								
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)	
活動指標	会議数	回	4	4	4	4	4	4								
対象指標	市民数	人	79,409	78,862	78,279	79,000	79,000	79,000								
成果指標	ハイキング参加数	人	0	100	48	200	200	200								
	ハイキングコース利用者(概算)	人	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000								

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

22年度東日本大震災によりハイキングは中止

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間・吾国愛宕県立自然公園地域内の保護管理には必要である。
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》		
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	笠間・石岡・桜川、市民の健康増進のためのハイキング大会は有効である。
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》		
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	平成25年度には負担金の見直しを行う。
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》		
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)	
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	ハイキングコース内の保護修繕やハイキング大会を共同で実施することは有意義である。	
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 協議会に加入していることで、ハイキングなどの市民の健康増進や県立自然公園内の笠間地区、友部地区の自然保護団体などの事業を実施している。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	広域で事業やキャンペーンを実施することは必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	協議会でのCM放送などは有効性がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	負担金により全体的に事業を実施しているため、効率的である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市町村単独では実施できない事業を広域で実施することにより、観光の推進が図れる。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案	④取組状況	⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
		⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 通年型観光地を目指すためには、市町村単独のイベントのPRだけでなく、広域でPRをしていく必要がある。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 35

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	笠間のまつり事業				評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単独区分	所管省庁	
					評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
	総合計画	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産業〕	総合計画実施計画	○	補助率					
	小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します	新規・継続	継続	H3		単年度繰返し	共催者・関係団体		笠間のまつり実行委員会	
施策	1 観光	開始年度	終了年度	実施手法		補助金の有無			負担金の有無		
小施策	4 おもてなしの心の醸成と充実	H3	単年度繰返し		すべて委託		○	—			
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画				
	一般	商工費	観光費	観光総務費	笠間のまつり事業	根拠法令	笠間市補助金等交付規則				

1 【事務事業の全体概要及び背景】	2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3 【年度目標】	4 【事業費の内容(決算額)】
市民自らの手で創りあげ、誰でも参加できる市民参加型の祭りとして、平成3年から灯籠流しと光のオブジェ(ねぶた&神輿)のパレードが開催されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笠間のまつり実行委員会への出席</li> <li>・各部会毎に実行委員と業務の連携</li> <li>・事務局として笠間のまつりの実施</li> <li>・補助金の支出</li> </ul>	入込客数 40,000人	補助金 7,290千円
	H25事業計画	H26事業計画	H27事業計画
	同上	同上	同上

5 事務事業の目的と手段			単位		
目的	①対象(働きかける相手・もの)	市民、観光客	④対象指標	市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どうい状態にしたいのか)	市民自らの手で創りあげる市民協同の意識を作り、だれでも参加できる市民総参加型のまつりを実施する。	⑤成果指標	入込客数 参加団体数(パレードのみ)	人 団体
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	市民の参加による灯籠流しと光のオブジェのパレードを開催。	⑥活動指標	参加者数(パレードのみ) 開催日数	人 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																		
		事業費	単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)		
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円														
		県支出金	千円															
		地方債	千円															
		その他	千円			7,290												
		一般財源	千円		7,290	0	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	
	事業費計(ア)	千円		7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290	7,290		
人件費	職員割合	人	千円	0.55	4,125	0.55	4,125	0.57	4,275	0.57	4,275	0.57	4,275	0.57	4,275	0.57	4,275	
	時間外	千円			530	530	530	530	530	530	530	530	530	530	530	530		
	嘱託臨時	千円																
	他課の協力分	千円																
	人件費計(イ)	千円		4,655	4,655	4,805	4,805	4,805	4,805	4,805	4,805	4,805	4,805	4,805	4,805			
トータルコスト(ア)+(イ)		千円		11,945	11,945	12,095	12,095	12,095	12,095	12,095	12,095	12,095	12,095	12,095				
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)			
活動指標	参加者数(パレードのみ)	人	1,443		1,422		1,294		1,500		1,500		1,500		1,500			
	開催日数	日	2		2		2		2		2		2		2			
対象指標	市民数	人	79,409		78,862		78,279		79,000		79,000		79,000		79,000			
	入込客数	人	39,000		39,000		39,000		40,000		40,000		40,000		40,000			
成果指標	参加団体数(パレードのみ)	団体	37		35		35		40		40		40		40			

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	誰でも参加できる市民参加型の夏まつりとしては必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	実行委員による呼びかけやPRにより、友部・岩間地区の参加者を拡大し、まつりの効果を図る。
	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	まつりの実行委員会は、民間で構成されており、ボランティアでまつりを運営している。補助金のほかに広告費や寄付金を募り運営資金としているが、近年の経済状況の下、この種の資金確保が難しい状況にある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	実行委員会ではまつりの準備などにも限界があるため、地域ポイント制度を活用したボランティアの参加が必要である。
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 ・実行委員の友部・岩間地区からの参加 ・市民参加型のまつりとしてのボランティアの参加
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 ・実行委員の呼びかけなどによる参加者の募集

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる 地域の活性化の衰退
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 東日本大震災の復興のためにも地域を活性化し、問題点を整理しながら継続していく必要がある。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 36

所属部課名 産業経済部 商工観光課

事務事業名	菊まつり事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画	補助単 独区 分	所管省庁	
			評価事業	重要事務事業	—	重点視点		市単独	
総合 計 画 系	政策	2 多彩な交流で飛躍する活力ある産業のまちづくり〔産 業〕		総合計画実施計画	○		補助率		
	小政策	1 笠間を体感できる観光・産業を振興します		新規・継続	継続				
	施策	1 観 光		事業期 間	開始年度	終了年度			
	小施策	4 おもてなしの心の醸成と充実		H19	単年度繰返し	共催者・関係団体		笠間の菊まつり連絡 協議会 友部菊花会	
予 算 科 目	会計	款	項	目	細目名	関連計画	笠間市観光振興基本計画		
	一般	商工費	観光費	観光振興費	菊まつり事業	根拠法令			
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	
						一部委託	○	—	

<b>1 【事務事業の全体概要及び背景】</b>	<b>2 【H24事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】</b>	<b>3 【年度目標】</b>	<b>4 【事業費の内容(決算額)】</b>
平成19年に100回を迎えた菊まつりを市民参加型で永続的な菊まつりとして開催することを目的に、関係機関により設立した。 協会によるテレビ・新聞社・旅行会社等へのキャンペーンを行い、観光客の誘致に努めている。	・笠間の菊まつり連絡協議会の事務局 ・市内の菊装飾及び撤去(10月中旬～11月下旬) ・まつり関連業務委託の締結 ・補助金の支出	入込客数 800,000人	報償費 191千円 需用費 1,552千円 役務費 6千円 委託料 4,441千円 賃借料 221千円 補助金 3,000千円
	H25事業計画 同上	H26事業計画 同上	H27事業計画 同上

<b>5 事務事業の目的と手段</b>				単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)	市民、観光客	④対象 指標	市民数	人
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)	市民が菊まつりを通じて、積極的なまちづくりへの参画意欲の高揚を図るため、「市民参加型」で「永続性」のあるまつりを実施する。	⑤成果 指標	入込客数	人
手段	③目的を達成するために実際に 行った行政活動(サービス)	笠間の菊まつり連絡協議会によるテレビ・新聞社・旅行会社等へのキャンペーンを行い、観光客の誘致に努めた。	⑥活動 指標	キャンペーン数 開催期間	回 日

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																	
事業費		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(計画)		26年度(計画)		27年度(計画)		28年度(計画)		
投入 コスト (イン プット)	事業 費	国庫支出金	千円														
		県支出金	千円														
		地方債	千円														
		その他	千円	354	345	425	353	353	353	353							
		一般財源	千円	8,161	6,594	8,986	9,544	9,544	9,544	9,544							
	事業費計(ア)	千円	8,515	6,939	9,411	9,897	9,897	9,897	9,897								
人件 費	職員割合	人 千円	0.86	6,450	0.55	4,125	0.60	4,500	0.60	4,500	0.60	4,500	0.60	4,500	0.60	4,500	
	時間外	千円	648	600													
	嘱託臨時	千円															
	他課の協力分	千円															
	人件費計(イ)	千円	7,098	4,725	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500								
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	15,613	11,664	13,911	14,397	14,397	14,397	14,397								
指標区分		単位	22年度(実績)		23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(目標)		26年度(目標)		27年度(目標)		28年度(目標)		
活動 指標	キャンペーン数	回	33	35	35	40	40	40	40								
	開催期間	日	39	40	44	40	40	40	40								
対象 指標	市民数	人	79,409	78,862	78,279	79,000	79,000	79,000	79,000								
	入込客数	人	775,000	770,000	793,000	800,000	800,000	800,000	800,000								

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

稲荷門前通りなどの菊装飾の充実

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間の秋を代表するイベントであるため必要である。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》		
効率性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	業務委託の見直しにより、事務の軽減を図り人件費の削減を行う必要がある。
	一次評価結果		
必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市内の菊装飾を充実させるとともに、マスコミ等に情報を発信してPRを強化する必要がある。		

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 ・メイン会場周辺の菊花装飾の工夫を図る。 ・メイン会場、サブ会場、サテライト会場と連携し、市内の回遊性を図る。
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 日本で最も古い菊の祭典で伝統があり、さらに笠間を代表する秋のイベントでもあるため、菊の装飾やPRの強化を図りながら継続していく必要がある。
	資源配分	拡 充	





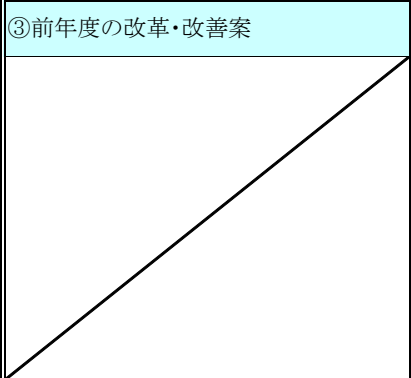
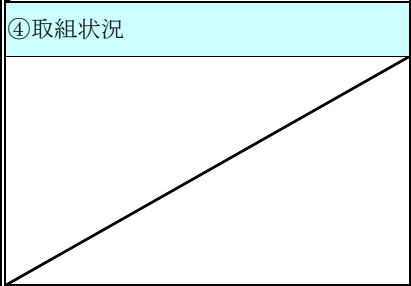
社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ゴールデンウィーク中の駐車場不足と渋滞の解消
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	笠間を代表する春のイベントであるため必要である。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input type="checkbox"/> 向上の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がある	駐車場を確保することにより、更なる集客が図れる。
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input type="checkbox"/> 削減の余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がある	業務委託の見直しにより、作業の軽減を図り人件費の削減を行う必要がある。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 駐車場の確保や誘導案内板などつつじ公園周辺の整備を行い、来園者の受け入れ体制を整えば指定管理者制度の導入を検討する必要がある。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案 ・駐車場の確保 ・駐車場への案内の充実 ・将来的に指定管理者制度の導入	フォローアップ 前年度の課題や問題点 ③前年度の改革・改善案 	その他 ⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法 ・駐車場用地取得の検討 ・誘導案内板の整備	④取組状況 	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

総合評価	今後の方向性	改善し、継続	評価理由 笠間の春を代表するイベントであるため、慢性的な交通渋滞と駐車場不足の問題などがあるが、課題を改善し継続する必要がある。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	恋人の聖地をPRしていく上ではホームページの管理等は必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	サポートショップをホームページで紹介することは、恋人の聖地の訪問者へは有効である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	恋人の聖地のPRに必要なホームページの管理が主な経費であるため、削減の余地がない。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		全体総括(振り返り、反省点)  恋人の聖地に認定されたことにより、笠間市の知名度向上に向けて、ホームページの更新やサポートショップの募集を行い、来訪者の回遊性による滞在時間の延長を図る。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案          ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点	その他
③前年度の改革・改善案	④取組状況	⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる  ⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間市の恋人の聖地の認定は、茨城県で唯一であり、市全域が認定されることも全国で珍しいことから、笠間市の知名度を向上させるためにホームページによる情報発信を継続していく必要がある。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》
一次評価結果	
全体総括(振り返り、反省点)	
必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある
効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある

【ACTION】事務事業の改革・改善

フォローアップ 前年度の課題や問題点

その他

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

③前年度の改革・改善案
④取組状況

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される
<input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない
<input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる
<input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性		評価理由
	資源配分		



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

平成23年度は東日本大震災により、愛宕山桜まつりは中止

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	桜を再生することは、賑わいのある観光地域にするためには必要である。
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性評価	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	日本を代表する桜を再生することにより、市民や観光客に癒しを与えるためにも必要である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	愛宕山や佐白山は広範囲のため、年次計画により業務委託を実施している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市民や観光客に癒しを与えることにより、賑わいのある観光地域としての観光振興を図る。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民や観光客の賑わいのある観光地づくりには、癒しを与える桜の木を再生することは必要であるため、年次的に継続して実施する。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
補助金等検討委員会の答申により、友部菊花会・駒場ほたるの会の補助金の見直しを行い平成24年度より廃止

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	自然保護活動や伝統芸能の伝承のためには必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	各団体の活動の補助のためには有効である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	補助金等審査会において審査されている。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	友部菊花会及び駒場ほたるの会の補助金は、補助の見直しを行い廃止となったが、岩間地区の伝統芸能の伝承のため補助をする必要がある。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

フォローアップ 前年度の課題や問題点

その他

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

③前年度の改革・改善案
④取組状況

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 地域の活性化や伝統芸能を後世に伝承するために事業の継続は必要である。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》  
平成24年度よりふるさと雇用事業から震災等緊急雇用対応事業へ制度の変更

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	観光協会の旅行業の運営のためには必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	雇用促進のための制度であるため有効である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	人件費が主な業務委託のため削減の余地がない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	雇用促進のための国の制度を活用し、観光協会が旅行業を運営するための有資格者を雇用することにより、笠間への誘客を図る。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	事業完了	評価理由 観光協会との業務委託は、地域求職者の雇用機会を創出し、募集型企画旅行を企画・販売することにより、笠間市の観光振興が図れた。
	資源配分	—	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	国の制度を活用し、高齢者の雇用促進を図ることは必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	雇用促進の制度であるため有効である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	人件費が主な業務委託であるため削減の余地がない。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		全体総括(振り返り、反省点)  通常の内観観光施設等の整備に加え、軽微な作業を業務委託できたことは、高齢者の雇用促進や施設の管理において有効であった。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	事業完了	評価理由
	資源配分	—	国の制度を有効に活用することができた。





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

平成24年度よりふるさと雇用事業から震災等緊急雇用対応事業へ制度の変更

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	菊まつりにおいて菊花の装飾を充実させ華やかさを演出することは必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》		
有効性評価	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	雇用促進の制度であるため有効である。	
	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	人件費が主な業務委託のため削減の余地がない。
一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある			

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 国の制度を有効に活用するため継続する必要がある。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	通年型観光地を目指すためには、魅力ある新たな旅行商品を開発し観光協会の旅行業との連携が必要である。
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	教育旅行の誘致を推進することにより、地域経済の発展に有効である。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	観光協会の旅行業と連携し、営業活動を実施することにより事業の効率化が図れる。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	教育旅行のモニターツアーは実施できなかったが、教育旅行向けのパンフレットを作成し、今後も引き続き観光協会と連携して誘致活動を行うことにより、通年型観光地を目指し地域経済の発展を図る。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 旅行エージェント訪問や教育旅行の誘致活動は、笠間市の知名度向上や地域経済の発展に期待できる。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性, 対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	恋人の聖地に選定されたことによる知名度の向上とスカイロッジ利用者の利便性を図るためには必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民, または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	観光施設を整備することにより、観光地としてのPR効果と地域経済の発展には有効である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し, 市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し, 個々の業務の効率化等, 業務委託や臨時雇用等)》	社会資本整備総合交付金事業を活用することにより事業費が効率的である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り, 反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	社会資本整備総合交付金事業を活用した事業を継続的に実施し、観光施設を整備することは、通年型観光地を目指す笠間市の知名度向上と地域経済の発展につながる。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案           ②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法	フォローアップ 前年度の課題や問題点 ③前年度の改革・改善案           ④取組状況	その他 ⑤事務事業を休止, 廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく, 問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる  ⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している
---	--	--

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 社会資本整備総合交付金事業を活用し、市財政の軽減を図りながら観光客誘致のための観光施設を整備することによる。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	茨城県内で初めて恋人の聖地に選定されたことによる笠間市のPRには必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	恋人の聖地に関連するイベントを開催したり、市内観光施設や商業施設を回遊させることは地域経済の活性化に有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	市民団体等のイベント開催を支援することは事業の推進に効率的である。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  恋人の聖地としての笠間市の知名度向上、更には結婚支援及び定住化につながる事業として推進を図る。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 「恋人の聖地 陶芸の里かさま」として、更なる知名度の向上のため事業の推進を図る。
	資源配分	現状維持	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	展望台からの眺望を楽しみに来られる方には必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	眺望を良くすることにより、リピーターの確保には有効である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	笠間・吾国愛宕県立自然公園協議会との連携により効率性がある。
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	展望台からの眺望を確保することは、愛宕山の知名度向上とハイキング客の誘致には必要な事業である。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	事業完了	評価理由 展望台からの眺望の確保は図れたが、今後も笠間・吾国愛宕県立自然公園協議会との連携は必要である。
	資源配分	—	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》

特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	市所有の観光施設を修繕することは、来訪者が快適に利用するために必要である。
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性評価	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	観光施設の快適な利用により、リピーターの確保に有効である。
	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
効率性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	突発的な出来事については、施設の管理者等と連携することにより効率性がある。
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	突発的な自然災害に対して、大規模な修繕になる場合は予算の確保と、早期に復旧させて利用者の利便性を図る必要がある。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
<input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む)
<input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	事業完了	評価理由 落雷等の突発的な自然災害に対し、早期に復旧させることにより、利用者の利便が図れた。
	資源配分	—	



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし
---

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	老朽化した施設を解体することは安全面でも必要である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	来訪者や近隣住民の安全の確保には有効である。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	安全を確保することにより、今後効率的な整備計画が図れる。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある		全体総括(振り返り、反省点)  懸案であったと土地開発基金所有の公園用地の買戻しと老朽化し危険な施設を整理することが出来る。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由  繰越事業であるため、早期に事業を実施する必要がある。
	資源配分	現状維持	